

分会  
通信

# イカルが生コン

## 名湯の下呂温泉に家族旅行

9月の初旬に日本の三名泉に数えられる下呂温泉に行ってきました。(ちなみに残りの二泉は、有馬温泉と草津温泉)ことの発端は5月のGWに、すっぽんを食べに行っただきに端を発します。「すっぽんを食べたし次は死ぬまでに家族全員泊りがけで温泉に行きたいね」の一言であった。その時は酒の勢いもあり「よっしゃ連れてってやる」と返事してしまった。それから休日事に家でゴロゴロしていると、「いつ温泉に行くの」と質問攻めにあい重い腰をあげた。



### 満室の夏休みに キャンセル空き

私の思考回路の中の図式では、温泉⇨コンパニオン(芸者さん)⇨アルコール×2⇨どんちゃん騒ぎであるが、主婦の中では、温泉⇨日常生活(炊事・洗濯・掃除・家事一式)⇨癒される×2であるらしい。

心身ともに苦勞を掛けているので行く決心をした。旅行社のパンフレットを、暇な時集めてまわった。

しかし休日は割高だし有名な温泉地は、かなりの値段で、3人で行くとなかなかの出費だ。

そんなおわり365日・泊2食付き78000円の、湯快リゾートのパンフレットを見つけた。湯快リゾートは北陸・関西の温泉地に18箇所あり、早速メールリゾート会員になり空室状況を検索した。

しかし夏休みと正月に土



▶ 45000円は痛かった。

日は、来年の春まで満室状態だったので、休日のキャンセル待ちを登録した。そうしたら8月の中旬に9月の初旬に、下呂温泉に空が出ましたと連絡が来たのですぐ予約した。

実際に行ってみると、まずJR天王寺に7時45分に集合して人数集約後の8時に専用バスで出発。バスにした理由は、ガソリン代や高速代に、寝ながら行くことを考えると往復30000円の運賃は、お得なのでバスにした。

途中、白川園というお茶屋さんが経営するドライブインで昼食をとり驚く事に食堂には、湯快リゾート定番なるものが存在した。色々入って豪華そうなので迷わず注文した。それとお茶屋さんを作る、茶の香り漂う茶蕎麦も注文した。

特に茶蕎麦は美味しかったので、自分用にお土産コーナーで買って帰る事に



▶ 地元の銘酒と杯。

した。お土産コーナーで試飲したお茶も美味しかったので、綺麗な茶筒に入った抹茶と玉露も自分用に買った。2時過ぎにホテルに着、途中休憩を含め6時間の行程であり、案内された部屋は最上階で窓から下呂温泉街が一望でき、室内も広く綺麗なので満足した。

### 飛騨牛の網焼きを 飲み放題にて回収

夕食は7時からのコースにし、娘が飛騨牛を食べたいと言ったので、飛騨牛の網焼きと飲み放題を注文して下呂温泉街の探索に出かけた。10箇所ある足湯のうち無料の6ヶ所と、お土産屋さん物産店を探索した。

地酒だけ扱う酒店で、試飲して美味しかった美濃焼の徳利に入った奥飛騨と、信楽焼の徳利に入った奥飛騨のいごり酒を買った。物産店では地元の陶芸家



▶ 清涼感漂う露天風呂。

が焼いた焼酎杯と、ビール杯に気になった物があって買った。浴衣姿でブラブラできるのも温泉街の特権で気分が良い。

さて夕食だがバイキング形式で、メニューも豊富で悪くなかった。注文したブランド牛に名を連ねる飛騨牛だが、A15ランクのサーロインで見事なサシが入っていた。手で持つと油が溶け出して、箸で切れる程の柔らかさがあり、口の中で溶けるように美味しかった。さすが一人前45000円の価値はあった。

しかし奮発した分を十二分に酒の飲み放題で、元は取り返した。何も気にせず、色々な酒を浴びるほど飲んだ。

チェックアウトはPM3時なので、久しぶりに時間を気にせず昼過ぎまで寝た。家族も喜んでくれて、心身共にリフレッシュした温泉旅行であった。



▶ 江戸時代初期の風景。